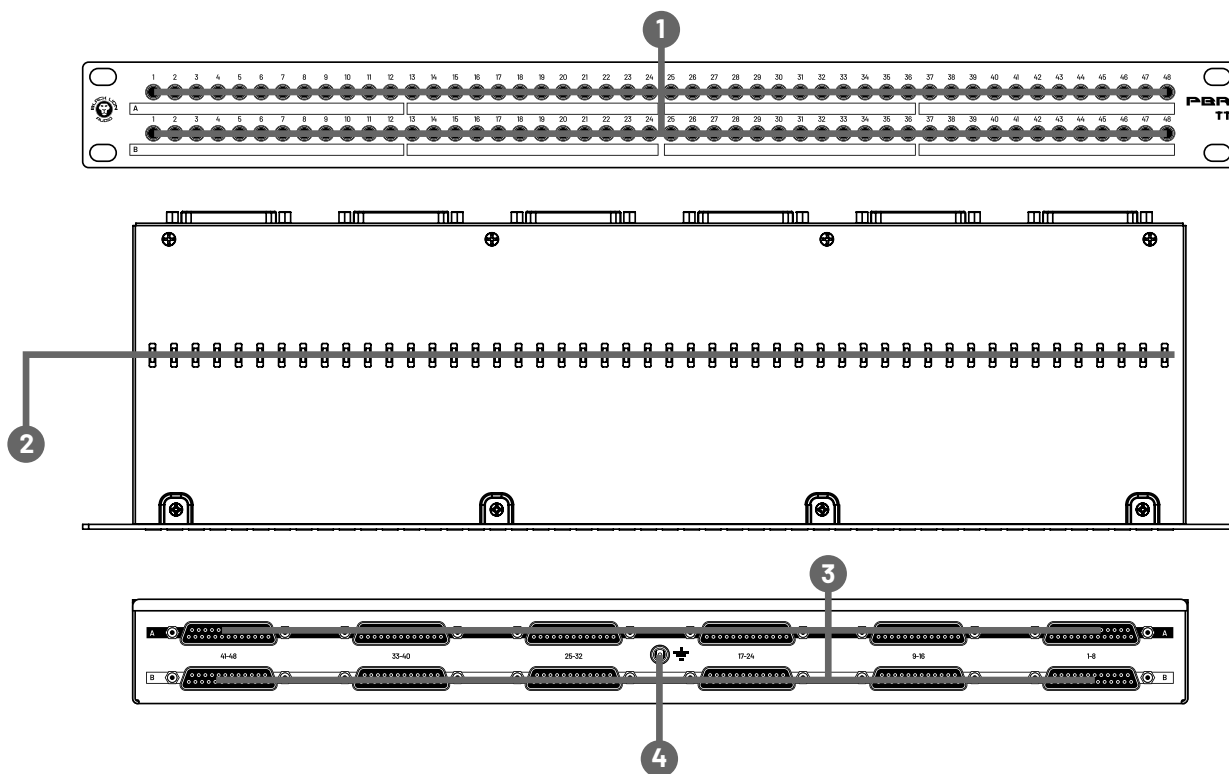




PBR TT Owner's Manual

この度は Black Lion Audio PBR TT をご購入頂き有難うございました。PBR TT は、スタジオ機器用に 96 の接続ポイントを提供し、お気に入りのハードウェアの常設とルーティングを可能すると同時に、柔軟でクリエイティブなパッチングを可能にします。

PBR TT パッチベイでは、ノーマル、ノンノーマル、ハーフノーマルのオペレーションが可能で、ユニット上部でモジュール毎に切り替えることができます。ここでいうモジュールとはパッチベイ上で縦に並ぶ端子を指します。フロントが TT、リアが DB25 です。典型的なパッチベイ構成では、デバイス出力がリア上列のパッチポイントに送信され、デバイス入力がリア下列に接続されます。例えば、ディレイユニットやコンプレッサーの入力をリアの DB25 出力接続に接続し、ディレイの出力を同じくリアの DB25 入力接続に接続します。



1. バランス TT 接続：TT (パンタム) 端子に対応し、オーディオ機器の接続やルーティングが可能。バランス接続に対応。
2. ノーマル / ノンノーマル / ハーフノーマルスイッチ：各モジュールのルーティングを、ノーマル、ノンノーマル、ハーフノーマルの各オペレーションの間で切り替えます。上 = ハーフノーマル、中央 = ノンノーマル、下 = ノーマル
3. DB25 接続：DB25 接続（ブレイクアウトケーブルで 8 チャンネル）に対応し、アウトボード機器の入出力に接続可能。一般的な慣例では、上列をデバイスの出力に、下列をデバイスの入力に接続します。
4. アース接続：グラウンドループによるノイズを防ぐため、アース線を使用してアウトボード機器と接続します。

<ケーブルの選択について>

BLA では、Hosa、Mogami、Rean、Neutrik、RedCo のケーブルで動作を検証を行い安全かつ信頼性を確認しています。ご使用に関しては、これらの動作検証済みブランドのケーブルをご利用ください。

<パッケージ内容>

- ・ PBR TT
- ・ フロント・パネル用ネーム・シール
- ・ 日本語マニュアル (本書)
- ・ ワッシャー 24 個

<ファンタム電源>

パッチベイからのファンタム電源の供給は推奨しません。ファンタム電源を扱うよう設計されていないデバイスにファンタム電源を送ることが可能となってしまう、大きな損害が発生する可能性があります。

< DB25 配列>

PBR TT パッチベイは Tascam DB25 配列を採用しています。一部のオーディオ機器ではヤマハ配列が使用されている場合があります。互換性について詳しくは、他の DB25 ハードウェアのマニュアルをご確認ください。

< TT パッチベイのシグナル・フロー>

パッチベイの各モジュールでの信号の流れは、物理的な接続とモード設定（ノーマル、ノンノーマル、ハーフノーマル）の両方の影響を受けます。最も一般的な構成では、信号はリア上段の接続からパッチベイに入り、リア下段の接続から出て行きます。逆に、フロントでは、上段の接続が出力、下段の接続は入力になります。

図 1 で示すとおり、モジュールのリア上段とリア下段のジャックに端子が差し込まれている場合、リア上段から入った信号はリア下段の出力に直接送られます。この接続方式をパッチベイの「デフォルト」設定としておき、通常のシグナル・フローに使うと良いでしょう。

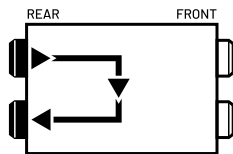


図 1

図 2 で示すとおり、モジュールの上段に何も接続されていない場合、フロント下段の入力からの信号はリア下段の出力に送られます。

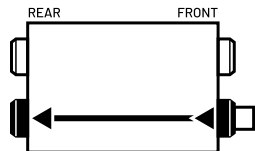


図 2

図 3 で示すとおり、モジュールの 4 つすべてのジャックに端子が差し込まれている場合、リア上段の入力に接続された信号はフロント上段の出力に送られ、フロント下段の入力からの信号はリア下段の出力に送られます。

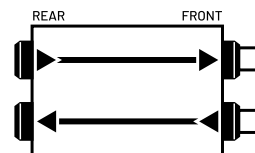


図 3

<ノーマル・モード>

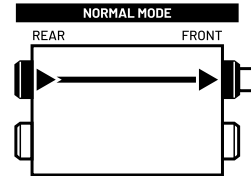


図 4

ノーマル・モードでは、複数のデバイスを直列で実行できます。これを行うには、パッチベイのフロントでパッチ・ケーブルを使用してデバイスを相互接続します。例えば、プリアンプからの信号をコンプレッサーに送り、最終的にはリバーブに送ることができます。ケーブルをフロント上段に差し込むと、リア下段に差し込まれているケーブルの接続が断たれます。

<ハーフノーマル・モード>

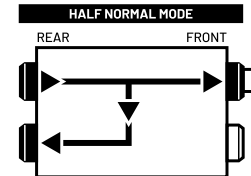


図 5

モジュールがハーフノーマル・モードの時、リア上段、リア下段、フロント上段のジャックに端子が差し込まれると、信号はリア上段からフロント上段に送られます。この時、図 1 の接続が断たれることはありません。

パッチベイに入ってくる信号を 2 つの異なる送り先に送ることで、パッチベイをスプリッターとして使用できます。これは信号の並行処理やアプリケーションのモニタリングに便利です。ハーフノーマル・モードになっているモジュールのフロント下段にケーブルを差し込むと、リア上段とリア下段のジャック間の接続が断たれます。

<ノンノーマル・モード>

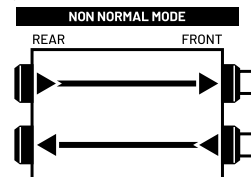


図 6

「オープン」とも呼ばれます。ノンノーマル構成では、上列と下列は端子列は一切接続されていません。ノンノーマルのオペレーションに設定されているモジュールは、フロントからリア、またはリアからフロントに信号をストレートにルートさせますが、垂直方向にはルートさせません。デバイスが自動でどこかにルーティングするのを防ぎたいセットアップに便利です。